

有限会社 豊後農興（豊後高田市払田）

【経営の概要】

経営形態	家族経営（有限会社）
モデルの種類	中山間地モデル
設立時期	（総会）平成14年10月17日 （登記）平成14年10月17日
構成戸数	7 戸
労働力	基幹2名 、補助6名

【経営規模(ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類 小麦	大 豆	飼料米	作業受託
平成19年	23.0	10.4	14.5	2.0	10.7	延べ37.6
平成20年	25.7	12.5	13.0	5.2	8.1	延べ38.8
平成21年	27.5	16.0	15.0	3.5	8.0	延べ42.5

【機械装備】

トラクター（50ps、23ps、21ps）	3 台	畦塗り機	1 台
田植機（5条、8条）	2 台		
コンバイン（6条）	1 台		
自走式動力噴霧器	1 台		
ロールベラー	2 台		

【経営の特徴】

- 14年 農地の受託を中心とした経営を実施し、地域の担い手となるべく法人化。
ライスセンターを所有。
- 17年 経営改善計画認定。
- 18年 特定農用地利用規程認定。

【導入した新技術】

◎自脱型コンバインによる収穫

（手法）6条型コンバイン（Y社、GC695）による水稻、小麦の収穫を行った。

（結果）これまでは収穫作業を外部に委託していた。
コンバインの導入により、作業委託料が減少、低コスト化につながった。
また、収穫にかかる時間は約10分/10aと効率的な作業ができ、収量や品質の向上につながる適期収穫が可能となった。



< 6条型コンバインによる収穫作業 >

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入

（手法）H19～21年の小麦栽培にあたって、5圃場（前作：水稲2、大豆1、飼料イネ2）で土壌分析を行い、診断結果に基づいた施肥を行った。

（結果） H20、H21年に行った土壌診断の結果、H19年は改良目標値より低かったPH、有効態リン酸値は改良目標値内に入り、土壌は非常に良好な状態へと改善された。

表 土壌診断値および土壌改良材投入量

	19年	20年	21年	(※改良目標値)
P H	5.7	6.1	6.48	5.8～6.5
有効態リン酸 (mg)	9.2	14.0	13.0	10～20
堆肥 (t/10a)	2	1	2	
苦土石灰 (kg/10a)	200	50	200	
溶磷 (kg/10a)	15～40	30	—	



＜粒状苦土石灰の散布＞



＜堆肥小屋を設置＞

◎その他特徴的な取組

飼料米を作付けし養鶏農家へ販売するとともに、コントラクターとして稲ワラを畜産農家へ供給する等、耕畜連携による水田活用を実施している。

また、園芸品目（小ネギ）の導入による経営の多角化・安定化を目指している。

◎主な波及活動

- ・豊後高田市の麦作農家を集めての麦播種前研修会にて、成果発表を行った。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	10.4hr (49.8%)	75,378円 (140.8)	2.3万円
水稲	17.2hr (54.2%)	97,712円 (66.2)	
麦	5.3hr (57.3%)	66,188円 (118.4)	
大豆	4.7hr (28.7%)	56,872円 (95.8)	